様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年４月１４日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号： 19520251
研究課題名（和文）　古典期アテーナイ演劇におけるジェンダー描出の研究

研究課題名（英文）　A Study of the representation of gender in the Athenian drama

研究代表者　西村　賀子
（NISHIMURA YOSHIKO）
和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授
研究者番号：30180649

研究代表者の専門分野：ヨーロッパ系文学
科研費の分科・細目：文学一般・西洋古典
キーワード：ギリシア文学・喜劇・悲劇・ジェンダー

１．研究計画の概要
（1）古典学におけるジェンダーの研究に関する先行研究を点検する。
（2）文献学の方法を踏まえながら紀元前 5 世紀アテーナイで上演された悲劇・喜劇作品を分析し、服装倒錯・言語・ステレオタイプ表現などの観点からジェンダー描出を解明する。

２．研究の進捗状況
（1）アリストパネースの「女もの」と呼ばれる３篇の喜劇、すなわち『リューシストラテー』、『テスモポリアズーサイ（テスモポリア祭を営む女たち）』、『エックレーシアズーサイ（女の議会）』におけるジェンダー描出についてはすでに服装倒錯と言語とステレオタイプ表現を中心にした分析を終えている。そしてその成果は 2009 年に「ギリシア喜劇全集別巻」（岩波書店）で発表された。
（2）アリストパネースのその他の喜劇作品８篇（『アカルナイの人々』、『騎士』、『平和』、『雲』、『蛙』、『蜂』、『鳥』、『プルートス』）におけるジェンダーについては、その描出は上記３篇と比較すると顕著ではないが、（1）であげた分析との関連を考慮しながら、また政治的・社会的コンテクストにという作品のバックグラウンドを重視しながら研究を進めているところである。「女もの」とは異なるこれら諸作品の性質上、その分析はステレオタイプ表現が中心になっている。
（3）もっかのところは原稿締め切りの関係上、喜劇断片に取り組んでいる。今年度前半に原典からの翻訳の原稿を完成させ、来年度中の刊行をめざしている。喜劇断片は量が膨大であり、断片という資料の性格上、しばしばその断片の前後関係が不明であるため、そのジェンダー分析は困難であるが、アリストパネース的なジェンダー意識や表現が他のマイナーな喜劇作家たちの断片にも出現しているかどうかが問題となる。その意味で断片研究はアリストパネースの独自性を明確化することになる見込みである。
（4）悲劇に関しては若干の遅れがある。

３．現在までの達成度
おおむね順調に進展している。〈理由〉鋭意、研究を進めているため。悲劇研究に関する若干の遅れの理由は、『オデュッセイア』の本の執筆（岩波書店）と、エレゲイア詩集の翻訳の締め切りに追われていることにある。

４．今後の研究の推進方策
（1）当初の計画では悲劇と喜劇という演劇内部でのジェンダー描出に主眼を置いていたが、研究を進めるなかで共時的な視点よりも通時的変遷に力点を移す必要も感じている。
（2）計画の整合性の視点から、当初の研究概要・計画を堅持しつつも、今後はジェンダー描出の歴史的経緯にも目配りをしていきたい。

５．代表的な研究成果
〔雑誌論文〕（計２件）
①西村賀子、西洋古典学におけるジェンダー

研究（２）、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要第５巻、2009、1-8。
②西村賀子、西洋古典学におけるジェンダー研究（１）、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要第４巻、2008、11-18。

〔学会発表〕（計１件）
Yoshiko Nishimura, “The Reception of Greek Tragedy in Modern Japan” 於 the International Conference of the Reception of Greek and Roman Drama in London, 2008 年 6 月 12 日.

〔図書〕（計２件）
①西村賀子、久保田忠利、安村典子、岩波書店、『ギリシア悲劇全集』第 4 巻、2009 年、552。
②西村賀子、丹下和彦、久保田忠利、中務哲郎、橋本隆夫、野津寛、安村典子、平田松吾、木村健治、マルティン・チエシュコ、佐野好則、岩波書店、『ギリシア悲劇全集』別巻「ギリシア喜劇案内」、2008 年、249－272。